

岩船沖洋上風力発電事業 地域説明会で寄せられた質疑・意見等(抜粋)

開催日 平成30年1月16日

会場 海府ふれあい広場

区分	質疑・意見等	回答・コメント	備考
事業性評価結果に関する事	胎内市の海岸線にある風力発電施設の系統連系はどのようなになっているのでしょうか。そこに繋ぐことは考えられないのでしょうか。	胎内市の風車発電は、2MWクラス×10基で、発電量が少ないため近くの変電所に接続されております。 当事業で設置予定の風車は3.6MWクラス×15基で、発電量が大きいため、北新潟変電所まで40キロの送電設備が必要になり、胎内市の施設には接続できません。(日立造船)	
	冬の荒れた波は、風車本体に影響を及ぼす心配はありませんか。	風車本体は、50年～100年確率で天候を予測し設計しております。冬場は10m程の波がありますが、海面からブレードまでの高さは20m～30mあるため、波の影響は無く心配はありません。(日立造船)	
	発電施設の耐用年数はどのくらいなのでしょう。	基礎部分は50年程ですが、発電機械部分は20年程度です。メンテナンスをしっかりと実施し、問題がなければ20年を経過しても発電を継続したいと考えております。(日立造船)	
	まだ事業化の可能性が残っている話しの中で、陸上部または山地への新たな計画や変更は考えられませんか。	これまで、一般海域における洋上風力発電事業で推進しており、陸上での議論はなされておられません。 洋上であれば、大きな風車が設置できる容易さがあり、今後も陸上ではなく洋上風力発電を考えてまいります。	
	メンテナンス、海底地質、漁業補償や粟島汽船航路などの多くの課題がある事を考えれば、陸上の方が良いのではありませんか。	粟島汽船さんとは、これまで協議をさせていただき、航路の確保をしています。 また、地元漁業者のご理解を得たうえで、今日に至っております。 ご心配のご意見を踏まえまして、これまでの方向性のもと、検討を進めてまいります。	
	事業が実現した場合、市のメリットには何がありますか。	固定資産税は勿論のこと、洋上風力発電という最先端技術がこの地にできること、技術的な専門的機関や、技術者養成教育機関の誘致についても可能性がります。 それに、この地域の雇用をつなげていければと考えております。	
	大停電が起きた場合、電源立地地域として優先的に電力の供給を受けられるものなのでしょうか。	売電を目的とする民間事業ですのでそのような計画は有りませんが、技術的には可能です。 地域貢献の意味合いからと、災害時等の非常用電源確保の意味合いから、可能性としては考えられます。(日立造船)	

区分	質疑・意見等	回答・コメント	備考
事業性評価結果に関する こと	岩盤に穴を開けて風車を建てることは、技術的に考えられないのでしょうか。	ヨーロッパでは直径6メートルのドリルシップがあり、岩盤に穴をあけてモノパイル基礎を建てる技術があります。 日本においてはコストや作業船等の課題がありますが、今後も検討を継続したいと考えております。(日立造船)	
	日立造船が代表会社と言う事で、建設に必要となる専用船も、国内建造されるのではと期待していたが、難しい話なのでしょうか。	専用船の建造には、150～200億円程度の資金を必要とします。 岩船沖の15基の計画だけでは困難ですが、日本各地で計画や事業化が進んでいけば、コストも抑えられることになり期待を持てるようになります。(日立造船)	
	日本海には岩盤が多いため、国内で計画を進めるには、作業船も建設技術も必要不可欠となるのではありませんか。	岩盤での工法として「サクシオンバケット工法」を検討しており、2～3年間を要しますが「クラスNK」という認証機関で設計認証を取ることを計画しております。 また、他の工法についても順次、検討してまいります。(日立造船)	
	風を利用した発電と、海流を利用した発電で比較すると、海流による発電の方が事業費を多く必要とするのでしょうか。	弊社では、海流による発電については基本的にやらない方針です。 空気に比べて密度の高い海流は、大きなエネルギーを持っている反面、異常気象時の発電機器の制御が難しく、風車のように安易に止めることができないなどの課題も多く、メンテナンスも困難であると認識しております。(日立造船)	
	反対の人もいるだろうが、何とかして事業化してもらいたいと思っております。	コストを下げて、この地でも実現できるように頑張りたいと思っております。 今日は、皆さんのお話に勇気づけられました。(日立造船)	
	海外の先進地では、風力発電事業が飽和状態になっており、日本では投資目的の事業化もあるとの助言をいただきました。 社会貢献や環境問題にも一生懸命に取り組んでくれた、良心的な日立造船のような事業者ばかりではありません。 参考になればと思っておりますの意見でした。	発電予定事業者とは、コストもかかる中、今日まで信頼関係を築きながらしっかりと取り組んでまいりました。 国のエネルギー政策が化石燃料から再生可能エネルギーにシフトする方向性であり、その大きな柱が風力です。50年後、100年後の次の時代に責任ある立場として、取り組む必要があります。 これからも議論を深めながら進めてまいります。	
その他	世界が自然エネルギーの流れになっているが、事業者として感じる点がありますでしょうか。	環境問題に取り組んでいない事業者は、ヨーロッパでは事業ができない状況になりつつあります。 企業として環境問題に適応できる会社を目指してまいります。(日立造船)	